高校生のスマートフォン・アプリ利用と
ネット依存傾向に関する調査
＜調査結果　概要＞

平成26年7月

総務省情報通信政策研究所

調査実施概要

本調査の目的

近年、スマートフォンが急速に普及し、ネットワークを介した動画やゲーム、ソーシャルメディアといった多様なサービスへのアクセスが飛躍的に容易になっている。この結果、特に、高校生においては、メッセージ・アプリを含むソーシャルメディアの利用が急速に進むなど、従来のメールや通話とは全く異なる新しいコミュニケーションの形態が拡大している。

このような中、ネットへの依存傾向についても、パソコンでのネット利用が中心だった時代のオンラインゲーム等への依存とは異なる、時間や場所を選ばないスマートフォンを用いたソーシャルメディア依存といった、新たな形態の依存傾向が増加しているのではないかと懸念されている。

このため、総務省情報通信政策研究所では、東京大学情報学環 橋元良明教授ほか※と共同で、我が国の高校生の中で最もネット利用が進んでいると考えられる、東京都内の高校生に対する大規模な調査研究を実施した。本調査研究では、スマートフォン・アプリの利用実態、家庭や友人関係などの利用を取り巻く環境、及びこれらとネット依存傾向の関係を分析することにより、依存傾向に陥りやすい環境等を明らかにすることを目的としている。

※ 大野志郎氏（学習院大学計算機センター助教）、天野美穂子氏（東京大学大学院学際情報学府博士課程 橋元研究室在籍）、堀川裕介氏（東京大学大学院学際情報学府博士課程　橋元研究室在籍）

調査実施概要

調査対象／調査手法

東京都教育庁の協力を得て、都立高等学校を対象とした調査を実施。

- 調査協力校 ： 都立の全日制及び定時制の高等学校　154校
- 調査手法 ： 無記名自記式質問紙調査。
  （株）山手情報処理センターにおいて、都立高等学校へ一括して調査票を郵送し、
  回収は学校が一括して返送。
- 調査対象 ： 各高等学校において、各学年1クラスずつ抽出（一部調査実施できなかった学年有）
- 有効回答数 ： 合計　15,191票

	1年生	2年生	3年生	合計
回収数	5,413	5,164	4,614	15,191

調査期間

- 調査期間
  平成26年1月7日～1月31日

1　ネット依存傾向の計測手法

◆　先行研究が多いヤング博士による20項目のインターネット依存尺度（1998）を参考に、ソーシャルメディアとその利用に即した文言を追加し、高校生向けに記述等を調整したものを試行的に活用し、ヤング博士の手法に従い、点数に応じて「高」「中」「低」の判定※。

1. 気がつくと、思っていたより長い時間ネットをしていることがある
2. ネットを長く利用していたために、家庭での役割や家事(炊事、掃除、洗濯など)をおろそかにすることがある
3. 家族や友だちと過ごすよりも、ネットを利用したいと思うことがある
4. ネットで新しく知り合いを作ることがある
5. 周りの人から、ネットを利用する時間や回数について文句を言われたことがある
6. ネットをしている時間が長くて、学校の成績が下がっている
7. ネットが原因で、勉強の能率に悪影響が出る
8. 他にやらなければならないことがあっても、まず先にソーシャルメディア（LINE、Facebookなど）やメールをチェックすることがある
9. 人にネットで何をしているのか聞かれたとき、いいわけをしたり、隠そうとしたりすることがある
10. 日々の生活の問題から気をそらすために、ネットで時間を過ごすことがある
11. 気がつけば、また次のネット利用を楽しみにしていることがある
12. ネットのない生活は、退屈で、むなしく、わびしいだろうと不安に思うことがある
13. ネットをしている最中に誰かに邪魔をされると、いらいらしたり、怒ったり、言い返したりすることがある
14. 夜遅くまでネットをすることが原因で、睡眠時間が短くなっている
15. ネットをしていないときでも、ネットのことを考えてぼんやりしたり、ネットをしているところを空想したりすることがある
16. ネットをしているとき「あと数分だけ」と自分で言い訳していることがある
17. ネットをする時間や頻度を減らそうとしても、できないことがある
18. ネットをしている時間や回数を、人に隠そうとすることがある
19. 誰かと外出するより、ネットを利用することを選ぶことがある
20. ネットをしている時は何ともないが、ネットをしていない時はイライラしたり、憂鬱な気持ちになったりする

※ Young ,KS.（1998） Caught in the Net: How to Recognize the Signs of Internet Addiction and a Winning Strategy for Recovery. Wiley.
を参考に東京大学大学院情報学環橋元研究室と調整

1　判定結果

		ネット依存傾向高	ネット依存傾向中	ネット依存傾向低	N
全体		4.6	55.2	40.2	14071
性別	男	3.9	51.5	44.6	6575
	女	5.2	58.5	36.3	7252
学年	1年生	5.2	58.2	36.7	4998
	2年生	4.8	56.5	38.7	4807
	3年生	3.7	50.2	46.1	4266
スマートフォン利用	利用	4.7	57.4	37.9	11942
	非利用	3.8	43.2	53.0	2112

➢ **依存傾向「高」の生徒は全体の4.6%。依存傾向「中」の生徒は55.2%。**

※登校している生徒のみからの抽出回答であるが、高校生全体で大きな変化があるとは考えにくい

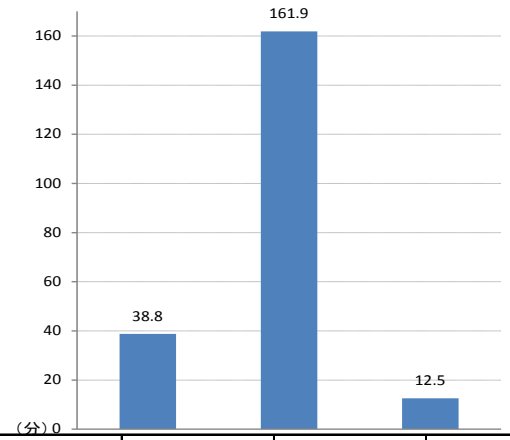
- 男子(3.9%)より女子が多い(5.2%)。
- 低学年(1年生5.2%)の方が高学年(3年生3.7%)より多い。
- スマートフォン利用者が非利用者(3.8%)よりも多い(4.7%)。依存傾向「中」の生徒まで合わせると、スマホ利用と非利用では10ポイント以上差が開く。

1 判定結果 － 手法の課題

	全体 (n=14071)	依存高 (n=645)	依存中 (n=7768)	依存低 (n=5658)
1. 気がつくと、思っていたより長い時間ネットをしていることがある	80.5%	98.8%	93.2%	60.9%
2. ネットを長く利用していたために、家庭での役割や家事（炊事、掃除、洗濯など）があろそかになることがある	44.4%	91.2%	61.3%	15.9%
3. 家族や友だちと過ごすよりも、ネットを利用したいと思うことがある	30.7%	89.3%	42.8%	7.3%
4. ネットで新しく知り合いを作ることがある	36.6%	80.2%	47.9%	16.1%
5. 周りの人から、ネットを利用する時間や回数について文句を言われたことがある	37.4%	86.7%	51.7%	12.1%
6. ネットをしている時間が長くて、学校の成績が下がっている	35.4%	86.7%	50.9%	8.3%
7. ネットが原因で、勉強の能率に悪影響が出ることがある	47.2%	91.5%	64.9%	17.9%
8. 他にやらなければならないことがあっても、まず先にソーシャルメディア（LINE, Facebookなど）やメールをチェックすることがある	59.7%	92.7%	74.8%	35.1%
9. 人にネットで何をしているのか聞かれたとき、いいわけをしたり、隠そうとしたりすることがある	21.7%	71.0%	30.4%	4.1%
10. 日々の生活の問題から気をそらすために、ネットで時間を過ごすことがある	37.1%	94.7%	52.4%	9.5%
11. 気がつけば、また次のネット利用を楽しみにしていることがある	44.5%	97.8%	63.4%	12.4%
12. ネットのない生活は、退屈で、むなしく、わびしいだろうと不安に思うことがある	40.6%	94.3%	56.8%	12.1%
13. ネットをしている最中に誰かに邪魔されると、いらいらしたり、怒ったり、言い返したりすることがある	22.9%	84.8%	32.1%	3.2%
14. 夜遅くまでネットをすることが原因で、睡眠時間が短くなっている	46.8%	95.8%	65.2%	15.8%
15. ネットをしていないときでも、ネットのことを考えてぼんやりしたり、ネットをしているところを空想したりすることがある	15.7%	78.6%	21.4%	0.7%
16. ネットをしているとき「あと数分だけ」と自分で言い訳していることがある	45.4%	93.6%	62.3%	16.8%
17. ネットをする時間や回数を減らそうとしても、できないことがある	51.5%	92.7%	71.3%	19.7%
18. ネットをしている時間や回数を、人に隠そうとすることがある	18.2%	55.7%	25.9%	3.4%
19. 誰かと外出するより、ネットを利用することを選ぶことがある	19.7%	75.8%	26.2%	4.4%
20. ネットをしている時は何ともないが、ネットをしていない時はイライラしたり、憂うつな気持ちになったりする	11.1%	64.2%	14.0%	1.1%

- ヤング博士の尺度は、世界的に最も幅広く用いられており、学術的な研究例も多い一方で、スマートフォン等によるネットへの常時接続、ソーシャルメディアによるコミュニケーションの一般化等の昨今の環境変化を必ずしも踏まえていない。
  - 例えば、「気がつくと思っていたより長い時間ネットをしていることがある」「他にやらなければならないことがあっても、まず先にソーシャルメディアやメールをチェックすることがある」等、半数以上が「いつもある」「ときどきある」と回答した項目は単なる一般的な利用形態を示すものであり、「依存傾向」の尺度としては疑問があると考えられる。
- 依存傾向「高」の生徒であっても、尺度による判定結果だけでは、ネットの活用度が高い層であるとは言えるものの、いわゆる「ネット依存」として治療が必要な者とまでは言えないことに留意が必要。
  - 依存傾向「高」という判定結果になったとしても、特に日常生活や社会生活に実害が出ていないのであれば、問題視する必要はない。 例えばICTを駆使して創造的な活動をしている生徒などは依存傾向「高」に該当する可能性が高いのではないか。
- 今後、尺度の時代適合性を高めるためには、現在の利用環境、サービスの態様を踏まえた上で日常生活への実害の有無等、より客観性の高い項目を加える等の検討が必要ではないかと考えられる。

2 高校生のネット利用の現状 ー 機器毎の利用時間



		パソコン	スマートフォン/フィーチャーフォン	タブレット端末
全体		38.8	161.9	12.5
性別	男	46.7	132.8	13.5
	女	31.7	186.9	11.2
学年	1年生	34.7	177.0	13.9
	2年生	39.3	157.5	11.7
	3年生	43.0	149.1	11.9
スマートフォン利用	利用	36.0	182.5	10.9
	非利用	53.8	44.0	20.8
ネット依存傾向	高	89.5	262.8	23.1
	中	44.5	181.7	13.3
	低	25.2	121.9	9.3

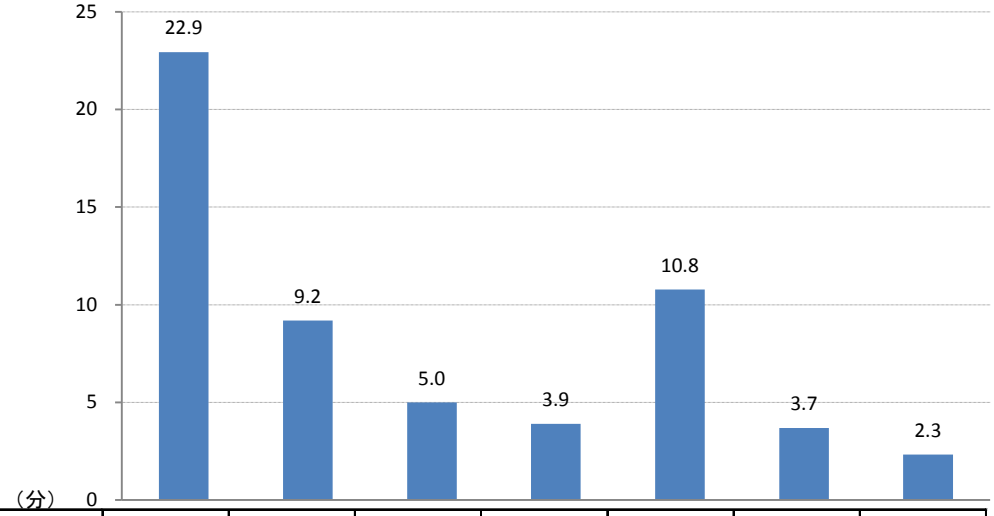
※ 分析母数は有効回答者全体

※ DK・NAを除いて計算しているためN値は異なる

- 機器毎のネット利用時間を見ると、スマートフォン・フィーチャーフォン利用時間が161.9分と圧倒的に長い。
- パソコンについては男子が、スマートフォン・フィーチャーフォンについては女子が長い。特にスマートフォン・フィーチャーフォンの利用については、女子が186.9分に対し、男子が132.8分と女子が顕著に長い。
- パソコンについては学年が上がるほど利用時間が長くなり、スマートフォン・フィーチャーフォンについては、学年が下がるほど利用時間が長くなる。
- いずれの機器もネット依存傾向が高いほど利用時間が長い傾向。特にスマートフォンでこの傾向が顕著。

2 高校生のネット利用の現状 ー サービス毎の利用時間 ①パソコン・タブレット

パソコンやタブレット端末での平均利用時間



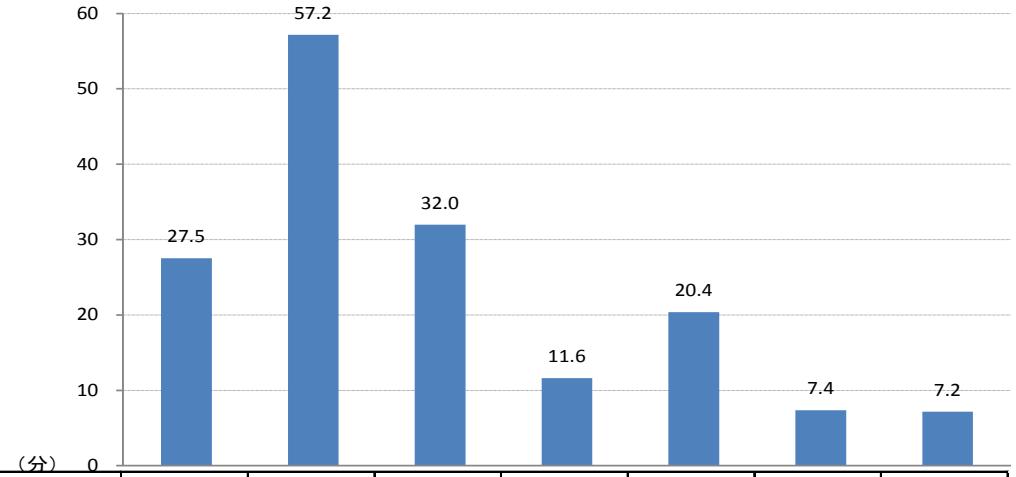
			動画投稿サイトを見る	ソーシャルメディアを見る	ソーシャルメディアに書き込む	ソーシャルメディアで無料通話をする	オンラインゲームをする	ニュースサイトを見る	ブログを見る
全体			22.9	9.2	5.0	3.9	10.8	3.7	2.3
性別	男		25.9	9.8	5.4	5.3	17.2	5.5	2.3
	女		20.3	8.5	4.5	2.6	4.7	2.0	2.3
学生別	1年生		22.1	9.0	5.1	3.2	10.1	3.2	2.1
	2年生		22.5	9.4	5.3	3.9	10.7	3.7	2.6
	3年生		24.4	9.1	4.6	4.8	11.7	4.3	2.2
スマートフォン利用	利用		20.6	8.0	4.3	3.9	9.8	3.4	2.1
	非利用		35.3	15.5	9.0	4.2	16.1	5.6	3.4
ネット依存傾向	高		49.4	34.1	20.2	18.8	32.4	9.5	6.5
	中		26.2	10.5	6.0	4.6	12.7	3.9	2.6
	低		15.2	4.5	1.9	1.6	5.0	2.8	1.4

※ 分析母数は有効回答者全体
※ DK・NAを除いて計算しているためN値は異なる

- パソコン・タブレット端末でのサービス毎のネット利用時間を見ると、「動画投稿サイトを見る」が22.9分で最も長い。
- 性別で見ると、「ブログを見る」以外は男子の利用時間が長いが、とりわけ「オンラインゲームをする」について、男子（17.2分）、女子(4.7分)とその傾向が顕著。
- いずれのサービスもネット依存傾向が高いほど利用時間が長い傾向。

2 高校生のネット利用の現状 ー サービス毎の利用時間 ②スマートフォン・フィーチャーフォン

スマートフォン・フィーチャーフォンでの平均利用時間

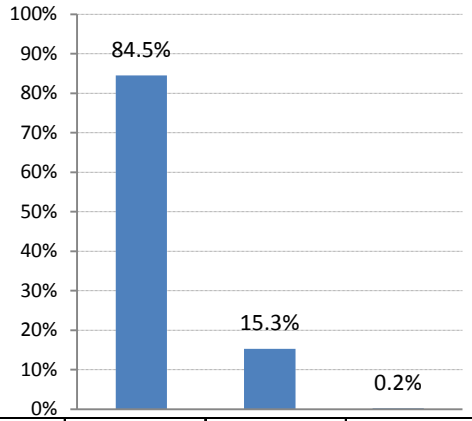


		動画投稿サイトを見る	ソーシャルメディアを見る	ソーシャルメディアに書き込む	ソーシャルメディアで無料通話をする	オンラインゲームをする	ニュースサイトを見る	ブログを見る
全体		27.5	57.0	31.9	11.6	20.3	7.3	7.1
性別	男	25.6	37.2	21.1	8.2	27.2	9.2	4.2
	女	29.0	74.2	41.3	14.4	13.8	5.6	9.7
学生別	1年生	30.0	67.3	42.0	12.7	23.6	6.3	7.0
	2年生	27.8	53.9	29.6	10.9	18.9	7.6	7.0
	3年生	23.9	48.1	22.2	11.0	17.9	8.4	7.5
スマートフォン利用	利用	31.2	65.3	36.4	13.4	23.0	8.2	7.9
	非利用	5.4	9.2	5.7	1.3	4.8	2.3	2.9
ネット依存傾向	高	47.7	113.1	78.6	22.4	37.7	10.2	13.2
	中	31.4	67.6	38.2	13.0	23.4	7.8	8.3
	低	19.4	36.4	18.1	8.0	14.3	6.3	4.3

※ 分析母数は有効回答者全体
※ DK・NAを除いて計算しているためN値は異なる

- スマートフォン・フィーチャーフォンのサービス毎のネット利用時間を見ると、「ソーシャルメディアを見る」が最も長い。
- 「ソーシャルメディアを見る」「ソーシャルメディアに書き込む」は、女子がそれぞれ74.2分、41.3分であるのに対し、男子が37.2分、21.1分と、女子が男子の2倍近く長い。逆に、「オンラインゲームをする」は、男子(27.2分）が女子(13.8分)より約2倍長い。
- いずれのサービスもネット依存傾向が高いほど利用時間が長いが、「ソーシャルメディアを見る」(113.1分)「ソーシャルメディアに書き込む」(78.6分)について、特にその傾向が顕著。

2 高校生のネット利用の現状　ー　スマートフォン利用の有無

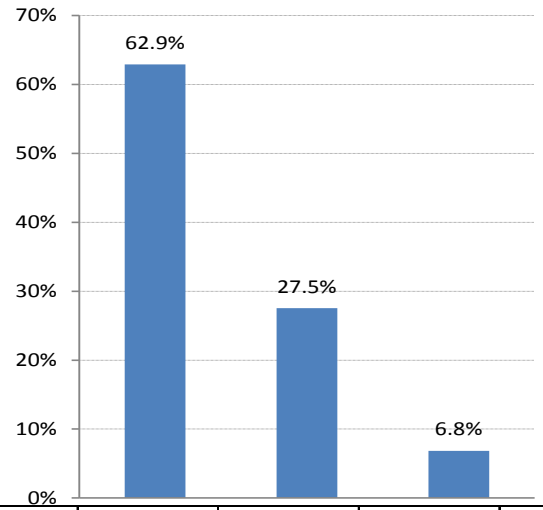


		利用している	利用していない	無回答	合計	N
全体		84.5%	15.3%	0.2%	100.0%	15191
性別	男	81.5%	18.3%	0.2%	100.0%	7069
	女	87.2%	12.7%	0.1%	100.0%	7678
学年	1年生	87.4%	12.4%	0.3%	100.0%	5413
	2年生	84.9%	15.0%	0.1%	100.0%	5164
	3年生	80.8%	19.0%	0.2%	100.0%	4614
ネット依存傾向	高	87.3%	12.6%	0.2%	100.0%	645
	中	88.2%	11.7%	0.1%	100.0%	7768
	低	80.0%	19.8%	0.2%	100.0%	5658

※　分析母数は有効回答者全体

- 全体の84.5%がスマートフォンを利用している。
  ※「スマートフォンを利用しているか」という設問であるため、ネット非利用者も含まれ得る。
- 女子（87.2%）が男子（81.5%）より利用率が高く、また学年が下がるほど利用している割合が高い。

2 高校生のネット利用の現状　ー　スマートフォン利用開始後のネット利用時間

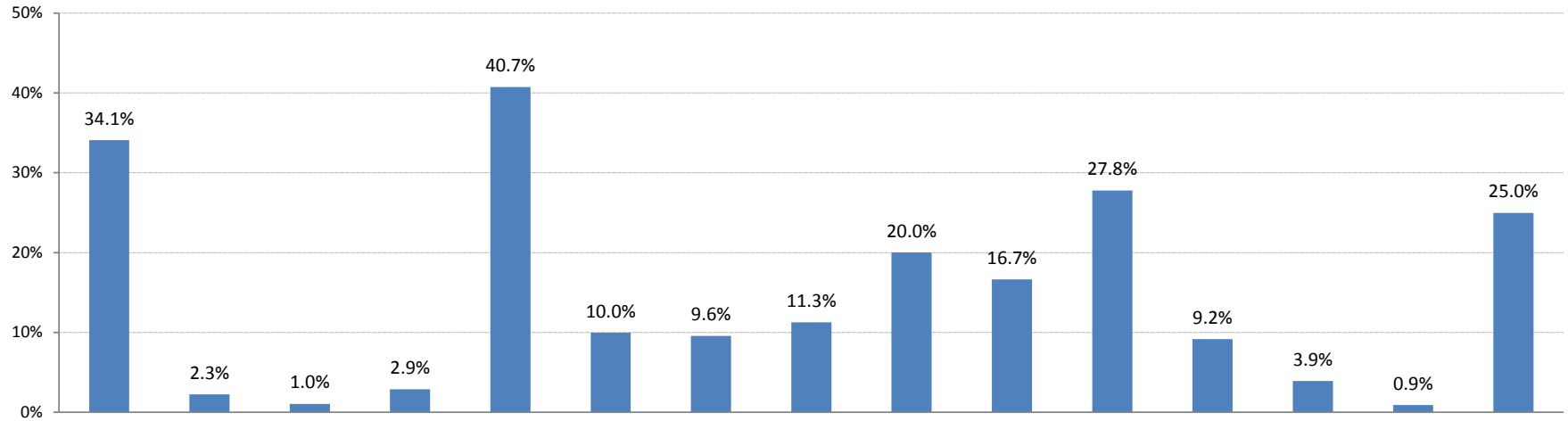


※　分析母数はスマートフォン利用者

		増えている	変わらない	減っている	無回答	合計	N
全体		62.9%	27.5%	6.8%	2.7%	100.0%	12841
性別	男	59.3%	30.7%	6.9%	3.1%	100.0%	5759
	女	66.3%	25.3%	6.9%	1.4%	100.0%	6698
学年	1年生	64.7%	26.2%	6.6%	2.5%	100.0%	4729
	2年生	64.2%	26.8%	6.4%	2.7%	100.0%	4384
	3年生	59.0%	30.2%	7.6%	3.2%	100.0%	3728
ネット依存傾向	高	81.5%	11.2%	3.4%	3.9%	100.0%	563
	中	67.7%	24.3%	6.2%	1.8%	100.0%	6851
	低	54.7%	35.3%	8.4%	1.5%	100.0%	4528

- 全体の62.9%がスマートフォンを持ち始めた時点と比較して、最近のネットの利用時間は増加えていると回答。
- 男女別では、女子（66.3%）の方が増えていると回答する割合が高い。
- 依存傾向別に見ると依存傾向が高いほど増加したと回答する割合が高く、依存傾向「高」では81.5%となった。

2 高校生のネット利用の現状 ー スマートフォン利用開始により減った時間【複数回答】

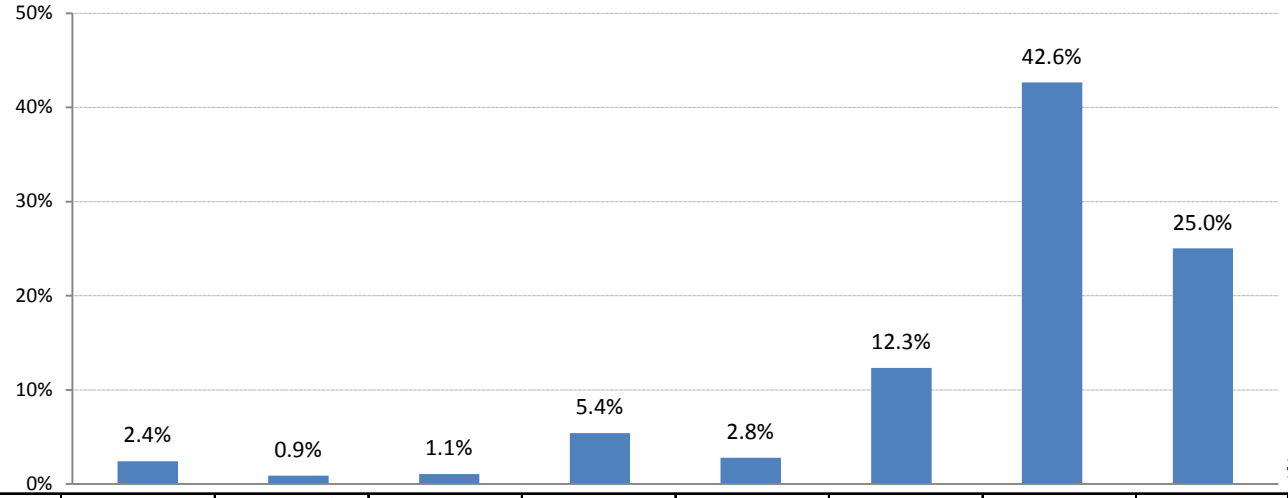


		勉強の時間	部活の時間	アルバイトの時間	食事の時間	睡眠時間	家事（炊事、掃除、洗濯など）の時間	外へ遊びに出かける時間	趣味に使う時間	本を読む時間	マンガや雑誌を読む時間	テレビを見る時間	家族と話す時間	友だちと会う時間	その他	あてはまるものはない	N
全体		34.1%	2.3%	1.0%	2.9%	40.7%	10.0%	9.6%	11.3%	20.0%	16.6%	27.8%	9.2%	3.9%	0.9%	25.0%	12841
性別	男	29.2%	2.8%	1.5%	2.9%	36.1%	6.8%	10.5%	10.9%	17.6%	17.8%	27.0%	8.1%	4.1%	1.2%	27.5%	5759
	女	38.3%	1.8%	0.6%	2.9%	44.8%	12.8%	8.9%	11.7%	22.5%	15.9%	28.6%	10.1%	3.8%	0.7%	23.2%	6698
学年	1年生	41.6%	2.7%	1.0%	3.4%	43.9%	13.0%	11.1%	14.4%	24.8%	19.6%	30.9%	11.2%	4.7%	1.1%	19.4%	4729
	2年生	33.7%	2.3%	1.0%	2.8%	41.8%	9.3%	10.0%	11.0%	20.2%	16.6%	29.4%	9.3%	4.0%	0.9%	23.5%	4384
	3年生	25.1%	1.6%	1.2%	2.3%	35.5%	6.8%	7.1%	7.6%	13.7%	13.0%	21.9%	6.4%	2.8%	0.7%	33.7%	3728
ネット依存傾向	高	67.7%	10.8%	4.3%	16.5%	74.6%	34.5%	36.1%	21.3%	36.2%	30.9%	42.1%	32.0%	20.8%	2.1%	6.2%	563
	中	42.8%	2.2%	0.9%	2.8%	51.7%	12.3%	11.0%	13.1%	23.6%	19.3%	31.9%	11.2%	4.1%	0.8%	15.5%	6851
	低	17.3%	1.0%	0.6%	1.1%	20.6%	3.3%	4.2%	7.4%	13.2%	11.6%	20.8%	3.4%	1.6%	0.8%	43.0%	4528

※ 分析母数はスマートフォン利用者

- 全体では「睡眠時間」（40.7%）、「勉強の時間」（34.1%）、「テレビを見る時間」（27.8%）などの該当率が高い。
- 「あてはまるものはない」を除くすべての項目で、依存傾向が高いほど該当率が高い傾向。
- 特に依存傾向「高」の生徒は、「睡眠時間」「勉強の時間」の該当率が全体平均より30ポイント以上高い。「友だちと会う時間」（20.8%）、「食事の時間」（16.5%）、「部活の時間」（10.8%）も全体平均のほぼ5倍の該当率。

2 高校生のネット利用の現状　－　スマートフォンのネット利用を原因とする経験

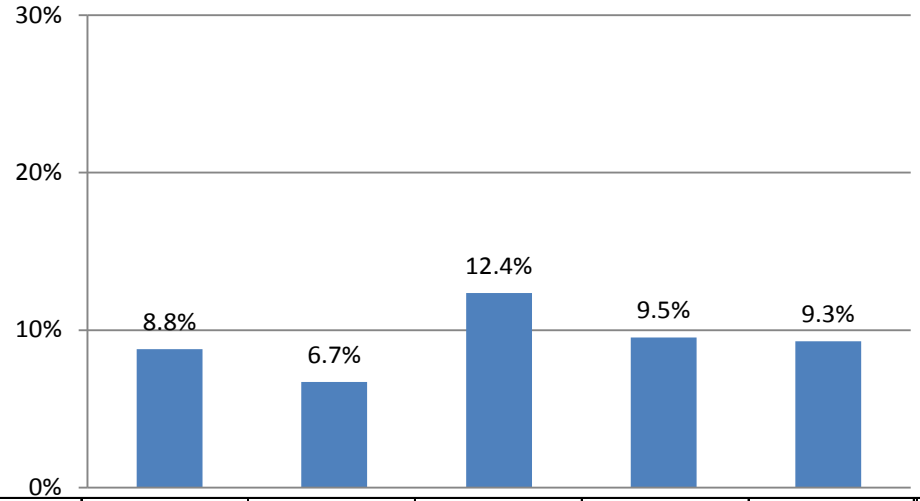


※　分析母数はスマートフォン利用者

		ネット利用が原因で、何度か学校をずる休みしたことがある	ネット利用が原因で、長期にわたる不登校や休学を経験したことがある	ネット利用が原因で、健康を損ね病院にかかったことがある	ネット利用が原因で、試験に失敗した	ネット利用が原因で、友だちを失った	起きている間中、ずっとスマートフォンでネットを利用している	ひまさえあれば、スマートフォンでネットを利用している	自分はネット依存だと思う	N
全体		2.4%	0.9%	1.1%	5.4%	2.8%	12.3%	42.6%	25.0%	12841
性別	男	2.6%	1.3%	1.3%	5.1%	2.9%	8.7%	34.7%	20.9%	5759
	女	2.2%	0.6%	0.8%	5.7%	2.7%	15.5%	50.0%	29.0%	6698
学年	1年生	2.3%	0.8%	1.1%	6.8%	2.6%	13.8%	45.6%	26.5%	4729
	2年生	2.3%	1.1%	1.3%	6.2%	3.1%	12.2%	43.0%	25.9%	4384
	3年生	2.8%	0.8%	0.7%	2.8%	2.6%	10.6%	38.4%	22.2%	3728
ネット依存傾向	高	13.9%	3.9%	5.5%	19.0%	10.8%	48.5%	76.7%	71.0%	563
	中	2.5%	1.0%	1.2%	6.9%	3.4%	15.1%	53.5%	33.7%	6851
	低	0.8%	0.3%	0.3%	1.3%	1.0%	3.8%	22.9%	7.0%	4528

- スマートフォンによるネット利用が日常生活に及ぼす影響等については、全体では「ひまさえあれば、スマートフォンでネットを利用している」が42.6%、さらに「起きている間中、ずっとスマートフォンを利用している」が12.3%。
- また、「自分はネット依存だと思う」と、ネットを使いすぎている実感を持っている生徒が25.0%存在。
- 上記3項目については、女子が男子より数ポイント以上高い。その他は男子がやや高い項目が多い。
- いずれの項目でも、依存傾向が高いほど該当率が高い傾向。

2 高校生のネット利用の現状　－　ネット利用による日常生活への影響



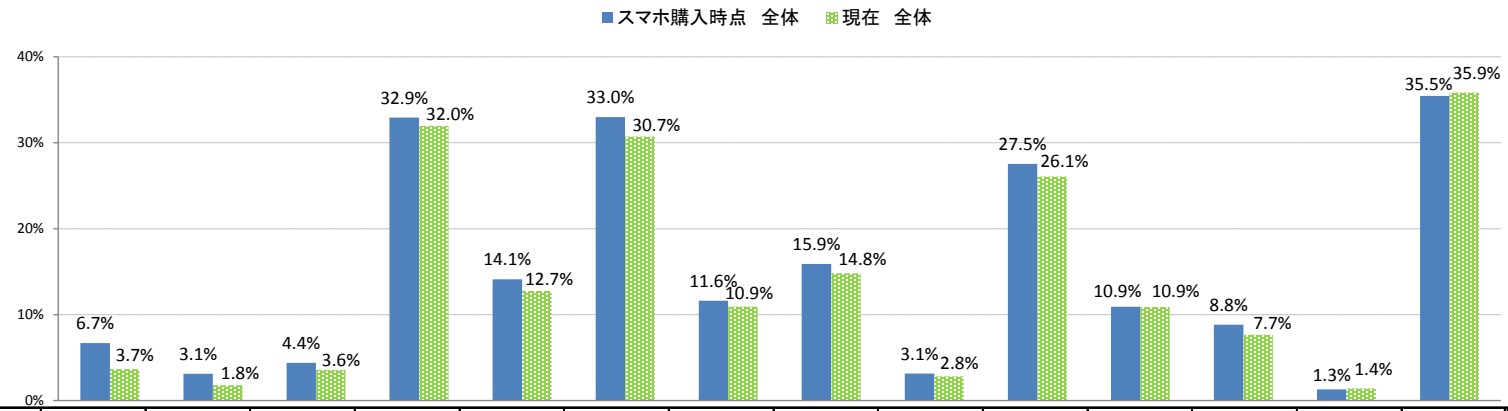
		ネットのしすぎが原因で、学校に遅刻したり欠席しがちになっている	ネットの利用をやめられなくて約束事をすっぽかすことがある	ネットのしすぎが原因で、ひきこもり気味になっている	ネットのしすぎが原因で、健康状態が悪化している	ネットに費やす金額が、だんだん増えている	N
全体		8.8%	6.7%	12.4%	9.5%	9.3%	15191
性別	男	10.8%	9.3%	14.2%	12.0%	11.4%	7069
	女	6.9%	4.3%	10.8%	7.3%	7.3%	7678
学年	1年生	7.6%	6.3%	12.3%	8.9%	8.0%	5413
	2年生	9.0%	7.0%	12.7%	10.0%	10.1%	5164
	3年生	9.9%	6.9%	12.1%	9.7%	9.8%	4614
スマートフォン利用	利用	9.2%	7.0%	12.2%	9.5%	9.8%	12841
	非利用	6.5%	5.0%	13.4%	9.4%	6.4%	2318
ネット依存傾向	高	35.8%	31.8%	49.0%	39.8%	31.5%	645
	中	11.8%	8.9%	17.3%	13.1%	12.6%	7768
	低	1.4%	0.8%	2.0%	1.3%	2.3%	5658

※　分析母数は有効回答者全体

※　各項目について五択で尋ね、「いつもある」「よくある」「ときどきある」の該当率を合算したもの。

- ネット利用全体による日常生活への悪影響については、いずれの項目においても男子の方が該当率が高い。
- いずれの項目でも、依存傾向が高いほど該当率が高い傾向。特に「ネットのしすぎが原因で、ひきこもり気味になっている」(49.0%)、「ネットのしすぎが原因で、健康状態が悪化している」(39.8%)、「ネットのしすぎが原因で学校に遅刻したり、欠席しがちになっている」(35.8%)は、全体平均の4倍。

2 高校生のネット利用の現状　－　スマートフォン利用に関する家庭内ルール

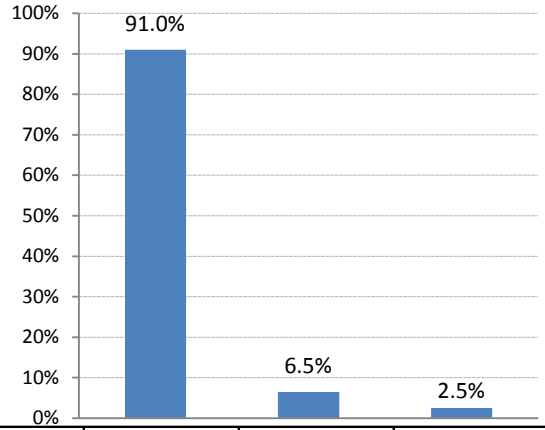


		「何時以降は利用しない」など利用してよい時間帯を制限している	「何時間以上利用しない」など利用時間の上限を決めている	自分の部屋や寝室ではスマートフォンを使わない	食事中は使わない	利用料金の上限を決めている	有料のアプリやサービスは使わない	登録が必要なサイトは親の許可を得る	個人情報は入力しない	パスワードロックをかけない	怪しいサイトにはいかない	書き込む言葉に気をつける	成績が下がったら利用を制限する	その他	特に約束していることはない	N
スマホ購入時点	全体	6.7%	3.1%	4.4%	32.9%	14.1%	33.0%	11.6%	15.9%	3.1%	27.5%	10.9%	8.8%	1.3%	35.5%	12841
現在	全体	3.7%	1.8%	3.6%	32.0%	12.7%	30.7%	10.9%	14.8%	2.8%	26.1%	10.9%	7.7%	1.4%	35.9%	12841
スマホ購入時点	依存傾向高	12.1%	8.5%	6.2%	31.6%	17.4%	32.5%	9.2%	19.0%	6.6%	27.5%	15.8%	15.5%	2.1%	32.9%	563
現在	依存傾向高	5.0%	2.8%	3.7%	28.8%	12.8%	26.5%	7.5%	15.6%	3.6%	24.7%	14.0%	10.3%	1.4%	34.6%	563

※　分析母数はスマートフォン利用者

- 家庭でのスマートフォン利用ルールについて、スマートフォン購入時点では「特に約束していることはない」（35.5%）が最多で、「有料のアプリやサービスは使わない」（33.0%）、「食事中は使わない」（32.9%）、「怪しいサイトにはいかない」（27.5%）と続く。
- 依存傾向「高」の生徒は、スマートフォン購入時点で、「利用時間帯を制限している」（12.1%）、「利用時間の上限を決めている」（8.5%）、「成績が下がったら利用を制限する」（15.5%）が全体平均の2倍前後。依存傾向「高」の生徒の方が、親が利用時間や利用を制限するルールを設けた上で購入している。
- 依存傾向「高」の生徒の現在の利用ルールを見ると、「利用時間帯を制限している」（5.0%）、「利用時間の上限を決めている」（2.8%）、「成績が下がったら利用を制限する」（10.3%）と全て購入時点より5ポイント以上減少しており、ルールがなし崩しになっている可能性も。

3 高校生のソーシャルメディア利用の現状 ー ソーシャルメディア利用の有無



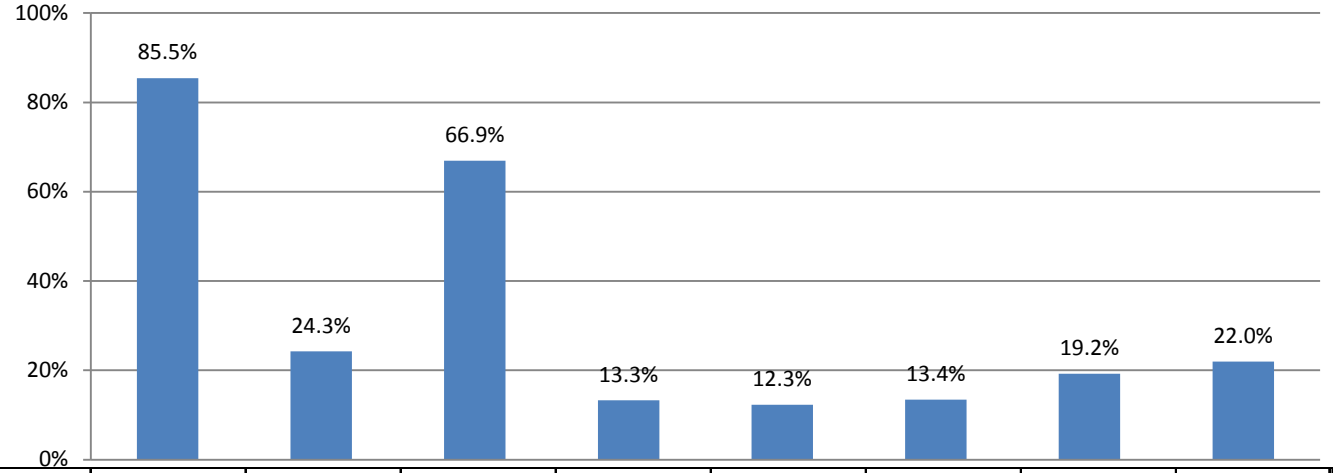
		利用している	利用していない	無回答	合計	N
全体		91.0%	6.5%	2.5%	100.0%	15191
性別	男	88.7%	7.9%	3.4%	100.0%	7069
	女	93.4%	5.2%	1.4%	100.0%	7678
学年	1年生	92.7%	5.2%	2.1%	100.0%	5413
	2年生	92.0%	6.0%	2.0%	100.0%	5164
	3年生	88.0%	8.5%	3.6%	100.0%	4614
スマートフォン利用	利用	97.1%	1.9%	1.0%	100.0%	12841
	非利用	57.6%	32.2%	10.1%	100.0%	2318
ネット依存傾向	高	96.3%	1.7%	2.0%	100.0%	645
	中	95.1%	3.7%	1.2%	100.0%	7768
	低	86.2%	10.6%	3.3%	100.0%	5658

※ 分析母数は有効回答者全体

- ソーシャルメディアを利用しているのは全体の91.0%。
- 女子(93.4%)の方が男子(88.7%)より利用率が高い。また、学年が下がるほど利用率が上がる傾向。
- スマートフォン利用者のソーシャルメディア利用率が97.1%であるのに対し、非利用者では57.6%と大きな差が見られる。
- 依存傾向が高いほど利用率が高い傾向。

3 高校生のソーシャルメディア利用の現状　ー 利用するソーシャルメディア（見る/書き込みをする）

利用している割合（「見る」「書込みをする」の合計）



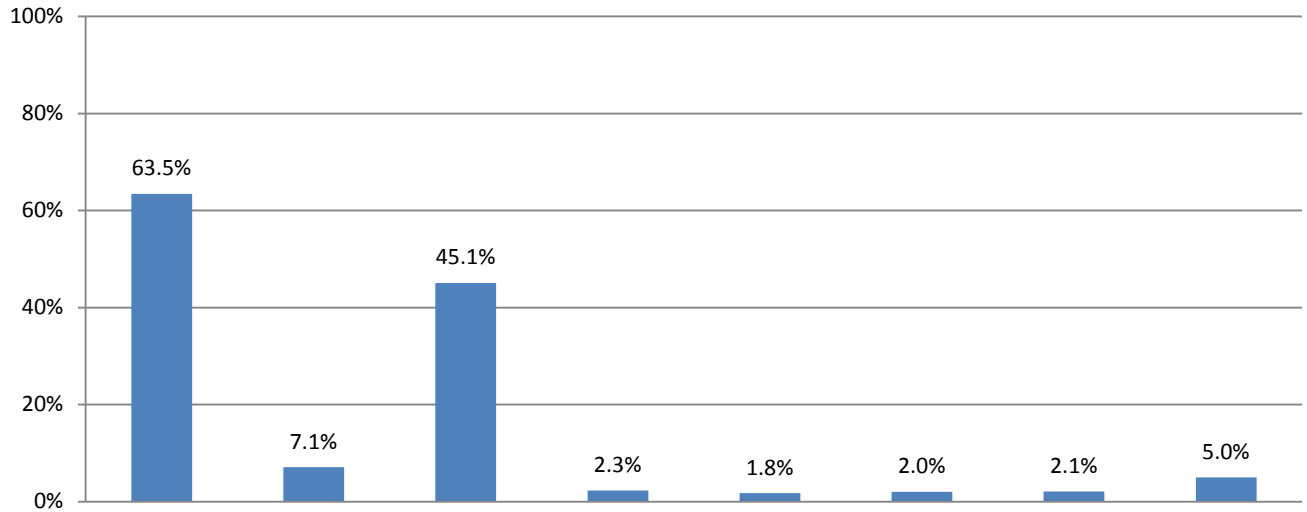
※　分析母数は有効回答者全体

		LINE（ライン）	Facebook（フェイスブック）	Twitter（ツイッター）	mixi（ミクシィ）	GREE（グリー）	Mobage（モバゲー）	Google＋（グーグルプラス）	その他	N
全体		85.5%	24.3%	66.9%	13.3%	12.3%	13.4%	19.2%	22.0%	15191
性別	男	82.3%	22.7%	59.5%	13.9%	14.9%	16.7%	19.6%	19.7%	7069
	女	88.7%	25.5%	73.7%	12.6%	9.7%	10.4%	18.7%	24.0%	7678
学年	1年生	88.9%	20.5%	69.2%	11.1%	11.1%	12.1%	20.6%	22.7%	5413
	2年生	86.8%	24.5%	67.5%	13.9%	12.7%	14.0%	19.4%	22.1%	5164
	3年生	79.9%	28.5%	63.6%	15.2%	13.2%	14.5%	17.5%	21.1%	4614
スマートフォン利用	利用	93.9%	26.3%	73.6%	14.0%	12.8%	13.9%	21.0%	23.4%	12841
	非利用	38.9%	13.0%	30.5%	9.3%	9.3%	10.8%	9.1%	13.9%	2318
ネット依存傾向	高	88.4%	27.3%	79.8%	18.0%	18.1%	20.5%	26.4%	35.0%	645
	中	89.7%	25.9%	74.0%	13.8%	12.9%	14.0%	21.2%	24.1%	7768
	低	81.0%	21.4%	56.6%	11.7%	10.6%	11.6%	15.4%	17.0%	5658

- LINEの利用率が全体で85.5%で最も高く、Twitter（66.9%）やFacebook（24.3%）がこれに続く。
- LINE、Facebook、Twitterは女子が男子より利用。GREE、Mobageといったゲーム系のサービスは男子が女子より利用。
- いずれのメディアの利用率も、スマートフォン利用者がスマートフォン非利用者より高いが、とりわけLINE（93.9%）、Twitter（73.6%）においてその傾向が顕著。
- LINEは依存傾向に関わりなく利用率が高いが、Twitterは依存傾向「中」及び「高」の生徒の利用率が、「低」の生徒に比べて20ポイント前後高い。その他は、全体に依存傾向が高いほど利用率が高い傾向。

3 高校生のソーシャルメディア利用の現状　ー　利用するソーシャルメディア（書き込みをする）

利用している割合（「書込みをする」人のみ）

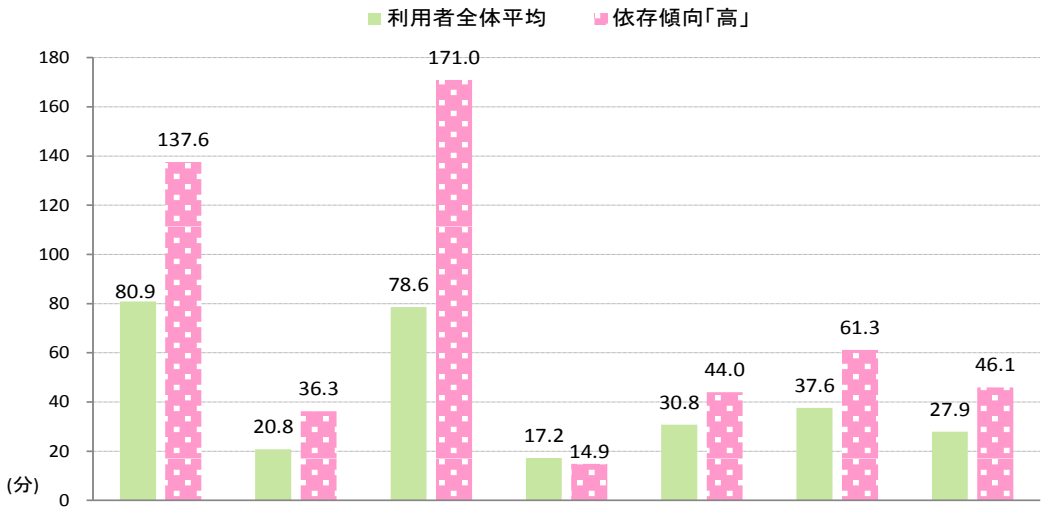


※　分析母数は有効回答者全体

		LINE（ライン）	Facebook（フェイスブック）	Twitter（ツイッター）	mixi（ミクシィ）	GREE（グリー）	Mobage（モバゲー）	Google＋（グーグルプラス）	その他	N
全体		63.5%	7.1%	45.1%	2.3%	1.8%	2.0%	2.1%	5.0%	15191
性別	男	57.2%	5.5%	35.4%	2.4%	2.2%	2.7%	2.5%	3.9%	7069
	女	69.6%	8.6%	54.1%	2.2%	1.5%	1.5%	1.7%	5.9%	7678
学年	1年生	68.3%	5.1%	49.8%	1.6%	1.4%	1.6%	2.1%	5.4%	5413
	2年生	65.8%	7.8%	45.6%	2.4%	1.7%	2.1%	2.1%	5.0%	5164
	3年生	55.1%	8.5%	38.9%	3.1%	2.3%	2.4%	2.0%	4.5%	4614
スマートフォン利用	利用	70.1%	7.6%	49.9%	2.4%	1.8%	2.0%	2.3%	5.2%	12841
	非利用	27.4%	4.0%	18.8%	1.7%	1.5%	2.0%	1.0%	4.0%	2318
ネット依存傾向	高	68.5%	8.7%	59.7%	4.3%	5.0%	6.1%	5.4%	13.5%	645
	中	69.1%	7.5%	52.8%	2.4%	1.8%	2.0%	2.2%	5.8%	7768
	低	57.2%	6.1%	34.0%	1.9%	1.3%	1.4%	1.3%	2.9%	5658

- 全体ではLINE（63.5%）、Twitter（45.1%）の順に書込み利用率が高く、順位は「見る」も含めた場合と同じ。
- 依存傾向「中」及び「高」の生徒ほど、書込み利用率が高い傾向。

3 高校生のソーシャルメディア利用の現状　ー ソーシャルメディア毎の利用時間

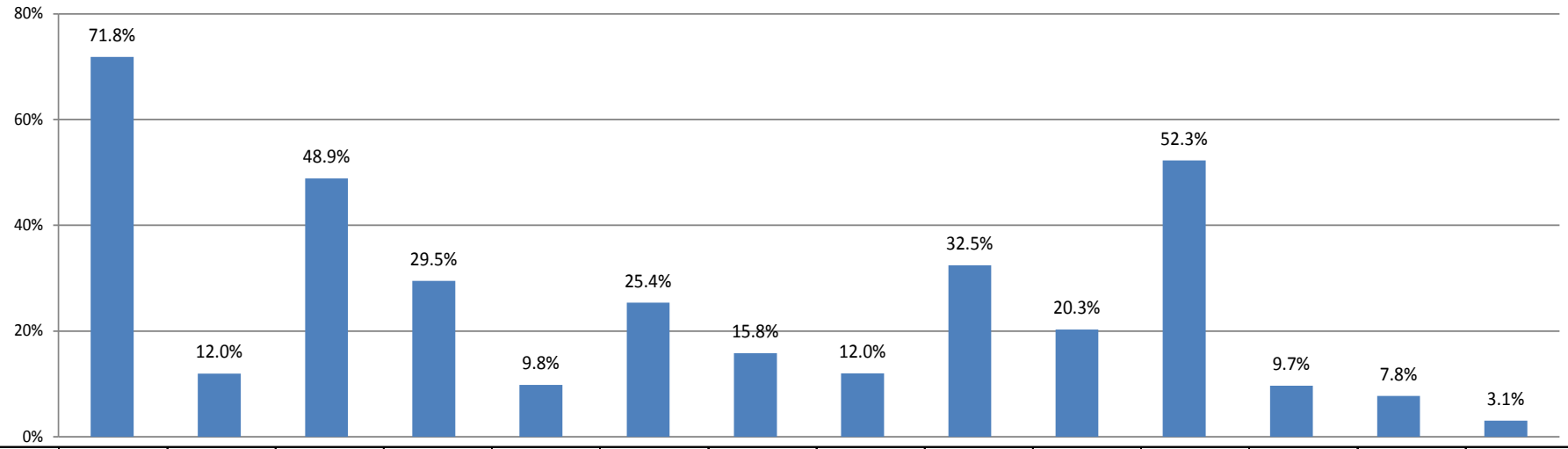


※　分析母数はソーシャルメディア利用者
※　DK・NAを除いて計算しているためN値は異なる

		LINE（ライン）	Facebook（フェイスブック）	Twitter（ツイッター）	mixi（ミクシィ）	GREE（グリー）	Mobage（モバゲー）	Google＋（グーグルプラス）	その他
全体		80.9	20.8	78.6	17.2	30.8	37.6	27.9	62.2
性別	男	61.7	18.4	55.2	14.8	29.9	34.2	24.9	62.3
	女	96.7	21.5	95.0	19.7	29.7	43.6	30.4	62.4
学年	1年生	95.0	22.3	89.1	13.4	24.5	27.9	27.0	65.2
	2年生	74.3	21.8	74.4	16.0	35.5	44.0	29.8	50.6
	3年生	70.0	18.6	69.7	21.2	31.9	39.9	27.0	72.7
スマートフォン利用	利用	83.7	21.6	80.2	17.5	30.2	35.1	28.1	61.4
	非利用	41.4	11.0	54.7	15.3	34.5	52.0	25.4	67.6
ネット依存傾向	高	137.6	36.3	171.0	14.9	44.0	61.3	46.1	125.2
	中	85.6	18.1	84.0	19.5	28.0	36.3	28.1	58.2
	低	65.1	19.5	53.1	13.4	27.9	30.9	22.1	44.7

- 利用者全体の平均時間が最も長いのはLINE（80.9分）で、次いでTwitter（78.6分）。
- 男女別に見ると、LINE、Twitterについては、女子がそれぞれ96.7分、95.0分で女子は男子より40分弱長く、男女差が顕著。
- 依存傾向が高いほど利用時間が長い傾向が見られるが、中でもLINEとTwitterは、他のサービスに比べその傾向が顕著。
- 依存傾向「高」の生徒の利用時間は、Twitter（171.0分）が最も長く、全体平均と比べ、2倍以上で100分弱の差があった。LINE（137.6分）も全体平均に比べ顕著に長く、50分以上の差。

3 高校生のソーシャルメディア利用の現状　ー　ソーシャルメディアの利用目的【複数回答】

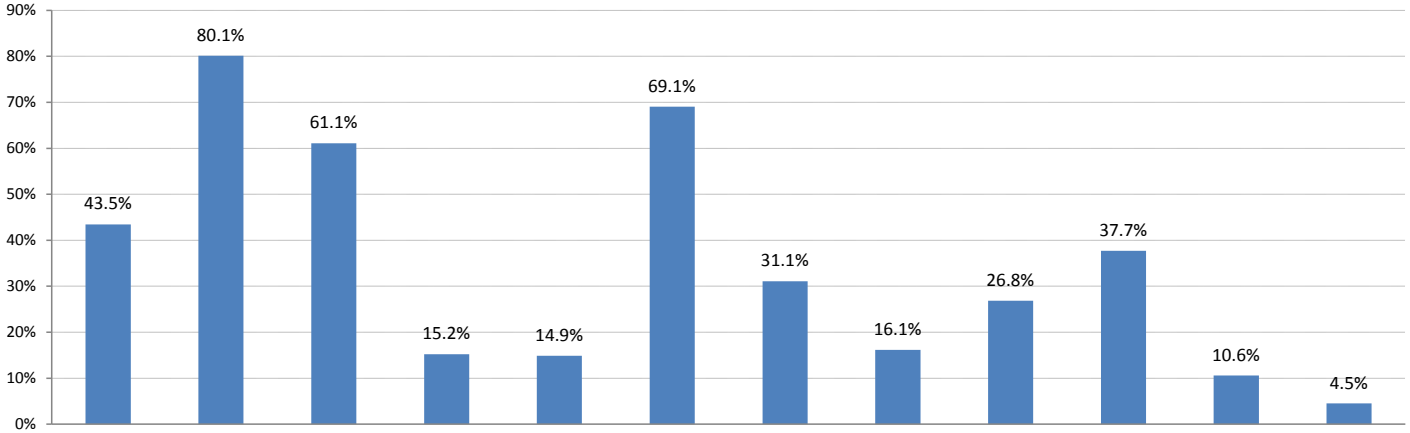


		友だちや知り合いとコミュニケーションをとるため	新たな友だちをつくるため	学校・部活動などの事務的な連絡のため	周囲の人も使っているため	自分の近況や気持ちを知ってもらうため	友だちの近況を知るため	有名人の近況を知るため	世の中の出来事に関する他の人の意見を知る	情報収集のため	写真・動画などを気軽に投稿・シェアできるため	ひまつぶしのため	ストレス解消のため	現実から逃れるため	その他	N
全体		71.8%	12.0%	48.9%	29.5%	9.8%	25.4%	15.8%	12.0%	32.5%	20.3%	52.3%	9.7%	7.8%	3.1%	13827
性別	男	67.0%	9.3%	43.8%	26.1%	7.7%	20.5%	7.7%	11.7%	29.4%	13.6%	48.7%	7.9%	5.0%	3.3%	6273
	女	76.3%	14.3%	53.6%	32.6%	11.7%	29.6%	23.1%	12.2%	35.3%	26.1%	55.6%	11.4%	10.2%	2.9%	7169
学年	1年生	75.4%	13.3%	57.6%	32.2%	11.0%	26.0%	16.2%	11.2%	31.9%	22.5%	54.1%	10.5%	8.5%	3.1%	5018
	2年生	71.0%	10.4%	48.1%	30.2%	9.6%	24.8%	15.3%	12.1%	33.1%	20.0%	53.1%	9.9%	7.9%	2.7%	4749
	3年生	68.4%	12.1%	39.0%	25.3%	8.6%	25.3%	15.9%	12.9%	32.5%	18.0%	49.1%	8.4%	6.7%	3.6%	4060
スマートフォン	利用	73.6%	12.4%	50.4%	30.5%	10.3%	26.2%	16.5%	12.2%	32.7%	20.9%	53.6%	9.6%	7.6%	2.8%	12469
	非利用	55.5%	7.9%	34.7%	20.0%	5.5%	18.0%	9.4%	10.7%	30.4%	15.5%	40.8%	10.6%	9.6%	5.2%	1336
ネット依存傾向	高	67.5%	32.4%	41.2%	38.2%	26.9%	36.9%	26.2%	22.4%	45.6%	36.4%	63.4%	35.6%	37.2%	3.7%	621
	中	74.1%	14.9%	49.7%	33.0%	12.0%	29.9%	19.1%	14.0%	37.0%	24.4%	57.7%	11.8%	9.6%	3.0%	7384
	低	71.1%	5.2%	51.0%	24.5%	4.5%	17.9%	10.1%	7.6%	25.4%	12.6%	44.1%	3.2%	1.4%	2.9%	4876

※　分析母数はソーシャルメディア利用者

- 「友だちや知り合いとコミュニケーションをとるため」が最も高く、全体で71.8%。「ひまつぶしのため」(52.3%)、「学校・部活動などの事務的な連絡のため」(48.9%)と続く。
- 依存傾向「高」の生徒は、「学校・部活動などの事務的な連絡のため」を除き、全体的に高め。特に、「ストレス解消のため」「現実から逃れるため」「新たな友だちをつくるため」については、依存傾向「中」や「低」の生徒に比べて、顕著に高い。

3 高校生のソーシャルメディア利用の現状　ー　ソーシャルメディアの利用シーン【複数回答】

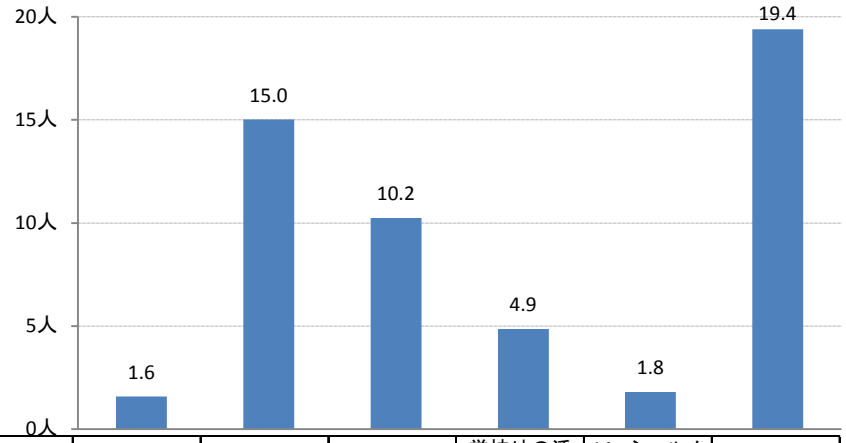


		起床直後	就寝前	テレビを見ながら	食事中	授業中	学校の休み時間	自宅で勉強しながら	入浴中	トイレの中	歩きながら	自転車に乗りながら	あてはまらない	N
全体		43.5%	80.1%	61.1%	15.2%	14.9%	69.1%	31.1%	16.1%	26.8%	37.7%	10.6%	4.5%	13827
性別	男	41.6%	74.4%	54.0%	13.6%	13.9%	65.2%	25.5%	10.7%	28.1%	30.3%	10.5%	6.1%	6273
	女	45.1%	85.4%	67.4%	16.5%	15.6%	72.5%	36.3%	20.8%	25.6%	44.2%	10.6%	3.2%	7169
学年	1年生	45.5%	81.1%	64.5%	14.6%	10.5%	74.9%	35.5%	15.6%	26.3%	40.2%	11.1%	3.7%	5018
	2年生	42.6%	81.5%	62.1%	15.5%	16.2%	69.4%	32.5%	16.4%	27.0%	37.8%	10.6%	4.1%	4749
	3年生	41.9%	77.3%	55.6%	15.6%	18.8%	61.5%	24.0%	16.6%	27.3%	34.6%	10.0%	6.0%	4060
スマートフォン利用	有	45.2%	81.9%	63.5%	16.0%	16.0%	73.2%	31.9%	17.1%	27.9%	40.4%	11.4%	3.7%	12469
	無	27.8%	63.5%	38.3%	8.0%	4.9%	30.9%	24.1%	7.2%	16.8%	13.1%	3.1%	12.1%	1336
ネット依存傾向	高	69.7%	88.9%	79.9%	40.9%	36.4%	82.3%	59.3%	35.1%	54.9%	65.7%	24.5%	1.9%	621
	中	48.6%	84.4%	66.0%	17.4%	16.6%	73.3%	37.7%	17.8%	29.8%	42.5%	11.5%	3.2%	7384
	低	32.4%	73.7%	52.2%	8.3%	9.1%	61.7%	17.9%	10.7%	18.6%	26.9%	6.8%	6.8%	4876

※　分析母数はソーシャルメディア利用者

- 全体では「就寝前」（80.1%）、「学校の休み時間」（69.1%）、「テレビを見ながら」（61.1%）の該当率が高いが、「歩きながら」（37.7%）、「自宅で勉強しながら」（31.1%）といった危険な利用、勉強の能率に影響する利用シーンも比較的高い。
- 依存傾向別に見ると、依存傾向が高いほど「あてはまるものがない」以外の全ての項目で該当率が上がる傾向。
- 特に依存傾向「高」の生徒については、全体平均に比べ、「歩きながら」(65.7%)が30ポイント弱、「自転車に乗りながら」(24.5%)が15ポイント弱と、危険な利用の該当率が高い。また「自宅で勉強しながら」(59.3%) 、「授業中」(36.4%)といった勉強の能率に影響する利用、「トイレの中」(54.9%) 、「食事中」(40.9 %)、「入浴中」(35.1%) といったマナーや場所の妥当性に問題がある利用も、全体に2-3割高い。

3 高校生のソーシャルメディア利用の現状 － ソーシャルメディアでよくやりとりする人数



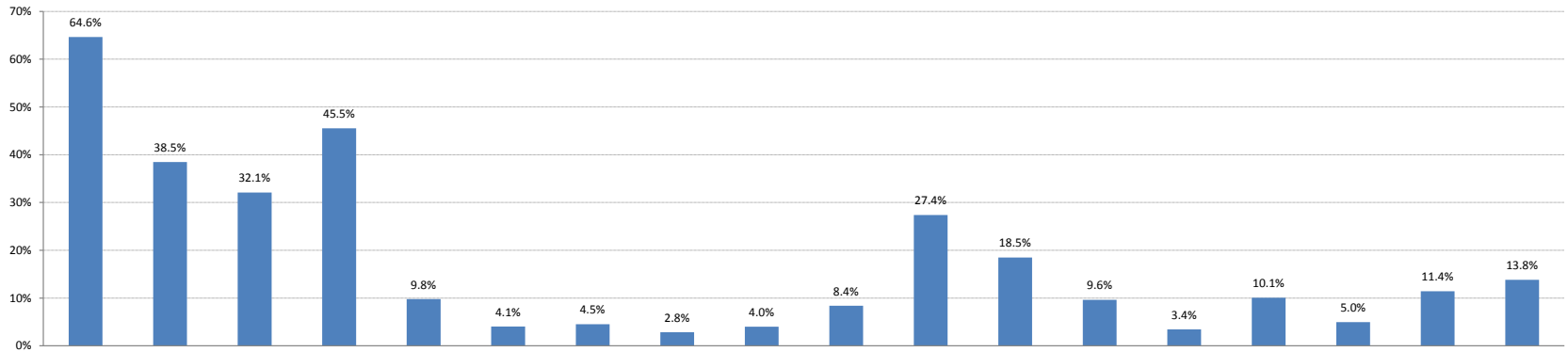
		家族	今通っている学校の友だち	以前通っていた学校の友だち（今は別々の学校）	学校外の活動（塾、クラブ活動、趣味の活動等）を通じて知り合った友だち	ソーシャルメディア上で初めて知り合い、実際に会ったこともある友だち	ソーシャルメディア上だけの友だち
全体		1.6	15.0	10.2	4.9	1.8	19.4
性別	男	1.4	16.1	11.7	5.6	1.9	24.0
	女	1.7	14.0	8.9	4.2	1.7	15.7
学年	1年生	1.6	16.1	12.8	5.2	1.7	23.0
	2年生	1.5	14.9	9.1	4.5	1.6	19.0
	3年生	1.6	13.7	8.5	4.9	2.1	15.2
スマートフォン利用	利用	1.7	15.3	10.5	5.0	1.9	18.9
	非利用	0.7	12.3	7.2	3.3	1.0	24.4
ネット依存傾向	高	1.6	14.1	10.4	5.7	5.3	93.1
	中	1.6	15.0	10.1	4.8	2.0	20.9
	低	1.6	14.7	10.2	4.5	1.1	8.0

※ 分析母数はソーシャルメディア利用者

※ DK・NAを除いて計算しているためN値は異なる

- 「ソーシャルメディア上だけの友だち」が全体で19.4人と最も多く、「今通っている学校の友だち」（15.0人）、「以前通っていた学校の友だち」（10.2人）と続く。
- 依存傾向が高い生徒は、「ソーシャルメディア上だけの友だち」が93.1人と非常に多い。「ソーシャルメディア上で初めて知り合い、実際に会ったこともある友だち」も5.3人（全体では1.8人）。「家族」「今通っている学校の友だち」「以前通っていた学校の友だち」では依存傾向による顕著な差は見られない。

3 高校生のソーシャルメディア利用の現状 － 利用開始後の人間関係の変化【複数回答】

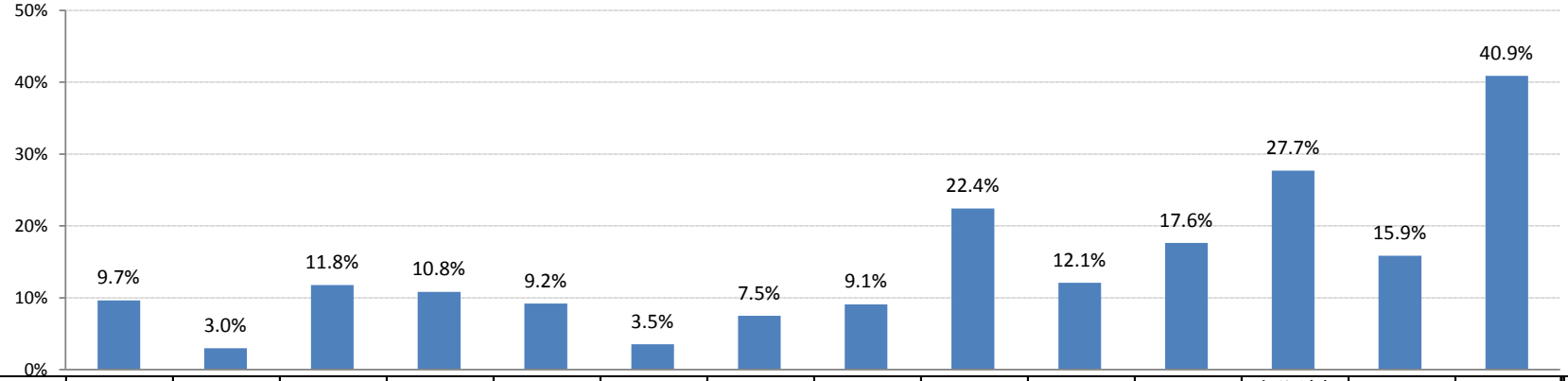


		友だちグループでの連絡事がはかどるようになった	元々いた友だちとのつきあいがより深くなった	学校の中でそれまで親しくしていなかった人たちとつきかいができた	友だちとより気軽にコミュニケーションができるようになった	友だちとのやり取りに気をつかうことが多くなった	友だちとのやり取りがやめられなくなった	友だちとのやり取りが気になって他のことに集中できなくなった	友だちづきあいに束縛されているような感じが出てきた	ソーシャルメディアでやり取りできるので、友だちとリアルで会う回数が減った	友だちについてのうわさを目にする機会が多くなった	友だちの意外な良い一面を知った	友だちの意外な悪い一面を知った	自分の行動や気持ちについて、より積極的に表現できるようになった	自分の隠し事を知られてしまうことが多くなった	親とのコミュニケーションが増えた	親とのコミュニケーションが減った	親にネットの事で注意されることが多くなった	あてはまるものはない	N
全体		64.6%	38.5%	32.1%	45.5%	9.8%	4.1%	4.5%	2.8%	4.0%	8.4%	27.4%	18.5%	9.6%	3.4%	10.1%	5.0%	11.4%	13.8%	13827
性別	男	61.0%	35.1%	28.5%	38.7%	9.7%	3.8%	3.5%	2.5%	3.4%	7.7%	24.6%	16.8%	7.8%	3.6%	7.8%	4.2%	8.0%	18.6%	6273
	女	68.2%	41.5%	35.3%	51.7%	9.9%	4.3%	5.4%	3.1%	4.6%	9.0%	29.9%	20.0%	11.2%	3.3%	12.1%	5.7%	14.4%	9.8%	7169
学年	1年生	67.5%	43.1%	39.3%	50.8%	10.9%	4.6%	5.4%	3.0%	4.9%	9.7%	31.8%	21.5%	10.6%	3.8%	10.7%	6.8%	15.5%	10.9%	5018
	2年生	66.4%	38.4%	31.2%	44.4%	10.0%	4.3%	4.6%	2.9%	3.9%	9.0%	27.8%	18.8%	9.6%	3.9%	9.8%	4.8%	11.5%	13.0%	4749
	3年生	59.0%	32.8%	24.1%	40.3%	8.2%	3.1%	3.3%	2.6%	3.0%	6.0%	21.4%	14.5%	8.4%	2.5%	9.6%	2.9%	6.3%	18.4%	4060
スマートフォン利用	有	66.9%	40.0%	33.6%	47.5%	10.1%	4.3%	4.7%	2.9%	4.1%	8.8%	28.3%	19.3%	9.8%	3.6%	10.8%	5.1%	11.6%	12.8%	12469
	無	44.0%	24.7%	18.0%	28.1%	6.7%	1.9%	2.6%	2.1%	2.7%	4.2%	18.9%	11.2%	7.8%	2.2%	3.6%	4.0%	9.9%	23.0%	1336
ネット依存傾向	高	64.1%	45.4%	41.7%	53.6%	23.7%	17.2%	20.0%	10.0%	18.5%	15.0%	40.6%	35.4%	21.6%	13.7%	12.7%	23.0%	38.5%	8.7%	621
	中	67.6%	42.3%	36.5%	50.9%	11.6%	4.6%	5.7%	3.4%	4.6%	10.3%	30.6%	21.6%	11.6%	3.9%	10.3%	6.0%	14.8%	11.2%	7384
	低	62.3%	32.3%	24.7%	37.6%	5.3%	1.5%	0.7%	1.1%	1.2%	4.8%	21.2%	12.2%	5.2%	1.5%	9.8%	1.1%	3.0%	18.1%	4876

※ 分析母数はソーシャルメディア利用者

- 全体では、「友だちグループでの連絡事がはかどるようになった」（64.6%）、「友だちとより気軽にコミュニケーションができるようになった」（45.5%）等の該当率が高く、人間関係に良い変化が生じている割合の方が高い。
- 依存傾向が上がるほど、良い変化も悪い変化も、ともに該当率が高い。
- ただし、依存傾向「高」の生徒の場合、「友だちの意外な悪い一面を知った」（35.4%）、「友だちとのやりとりに気をつかうことが多くなった」（23.7%）、「友だちとのやりとりが気になって他のことに集中できなくなった」（20.0%）など、友だち関係の悪い変化の該当率が全体平均と比べ顕著に高い。
- 依存傾向「高」の生徒の親との関係の変化については、全体平均と比べ、「親にネットのことで注意される事が多くなった」（38.5%）は3倍以上、「親とのコミュニケーションが減った」(23.0%）は4.5倍以上。

3 高校生のソーシャルメディア利用の現状 － 利用する際の悩み・負担【複数回答】

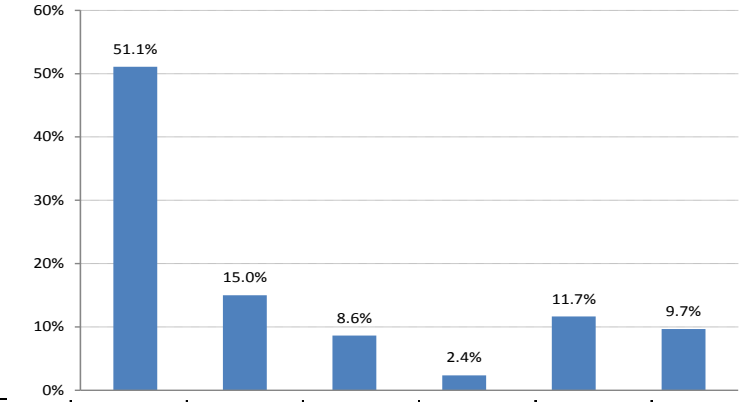


		ソーシャルメディア内の人間関係	ひんぱんにメッセージを投稿しなければいけないような気がすること	友だちのメッセージをチェックすること	自分の個人情報やプライベートな事柄をどこまで書いてよいものか悩む	他人の個人情報やプライベートな事柄をどこまで書いてよいものか悩む	悪意のあるコメントや荒らしが来ること	見ていない間に自分の悪口が書かれていないか心配になる	知りたくもないのに人の行動がわかってしまうこと	メッセージを読んだことがわかる機能(「既読チェック」など)があること	メッセージがきたらすぐに返事を書かなければいけないこと	友だちとのやりとりをなかなか終わらせられないこと	自分が書いてしまった内容について、後から「あれで良かったか」などと悩む	自分の書いたメッセージに反応がないこと	あてはまるものはない	N
全体		9.6%	3.0%	11.8%	10.8%	9.2%	3.5%	7.5%	9.1%	22.4%	12.1%	17.6%	27.7%	15.9%	40.9%	13827
性別	男	7.8%	2.9%	9.8%	7.3%	6.6%	4.0%	6.1%	6.1%	15.0%	8.7%	11.6%	21.7%	12.9%	49.5%	6273
	女	11.2%	3.0%	13.5%	13.9%	11.5%	3.2%	8.7%	11.7%	29.0%	15.1%	22.8%	33.0%	18.4%	33.8%	7169
学年	1年生	11.2%	3.1%	13.8%	11.5%	10.4%	4.1%	8.7%	8.3%	25.4%	13.9%	20.1%	30.3%	17.9%	37.8%	5018
	2年生	9.1%	3.0%	12.0%	10.1%	8.6%	3.5%	7.4%	9.4%	22.3%	12.0%	18.0%	27.6%	16.4%	41.1%	4749
	3年生	8.3%	2.8%	9.0%	10.8%	8.4%	2.9%	6.1%	9.7%	18.8%	10.0%	14.0%	24.6%	12.8%	44.5%	4060
スマートフォン利用	利用	9.8%	3.0%	12.0%	11.1%	9.5%	3.5%	7.8%	9.5%	23.2%	12.5%	18.2%	28.2%	16.2%	40.9%	12469
	非利用	8.2%	3.0%	10.1%	7.9%	6.4%	3.6%	5.2%	5.1%	16.0%	8.6%	12.3%	23.2%	13.0%	41.2%	1336
ネット依存傾向	高	30.3%	10.3%	26.6%	23.2%	20.1%	13.0%	21.7%	17.4%	36.2%	25.8%	34.8%	51.9%	36.4%	20.1%	621
	中	12.1%	3.4%	14.0%	13.6%	11.7%	4.1%	9.2%	10.6%	26.7%	14.3%	21.3%	33.6%	19.1%	33.9%	7384
	低	3.5%	1.1%	6.7%	5.4%	4.3%	1.4%	3.5%	5.8%	15.0%	7.4%	10.1%	16.6%	8.7%	54.6%	4876

※ 分析母数はソーシャルメディア利用者

- 全体では「あてはまるものはない」が40.9%で最も多いが、約6割の生徒が悩み・負担に感じることがあるという結果。
- 負担感の中で多いのは「自分が書いてしまった内容について、後から『あれで良かったか』などと悩む」(27.7%)、「メッセージを読んだことが分かる機能があること」(22.4%)、「友だちとのやりとりをなかなか終わらせられないこと」(17.6%)の順で多い。
- 依存傾向が高いほど、負担感の項目について該当する割合が高く、「あてはまるものがない」が低い傾向。
- 依存傾向「高」の生徒は約8割が悩み・負担感があり、多くの項目で該当率が顕著に高い。

4 高校生のリテラシとネットマナー － 利用マナーに反する行動【複数回答】

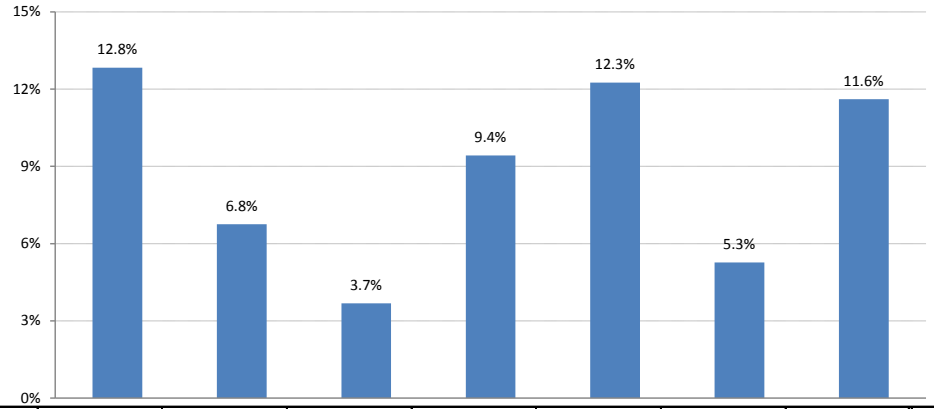


		歩きながらスマートフォンに見入ることがある	肩越しに他人のディスプレイ画面や入力した情報を盗み見たことがある	友だちや知り合いについて「ウザい」「キモい」など、相手が気分を害するような感想をネットに書き込んだことがある	友だちや知り合いのふりをしてネットに書き込みをしたことがある	友だちや知り合いが写っている写真を勝手に人に送ったり、ネットにアップしたことがある	自分の年齢や性別をいつわって、書き込みしたり、登録したりしたことがある	N
全体		51.1%	15.0%	8.6%	2.4%	11.7%	9.7%	15191
性別	男	45.5%	16.4%	9.5%	3.5%	11.4%	11.3%	7069
	女	57.1%	14.0%	7.9%	1.3%	12.1%	8.4%	7678
学年	1年生	52.6%	14.8%	10.0%	2.8%	13.0%	10.0%	5413
	2年生	53.0%	16.1%	8.8%	2.2%	11.8%	9.4%	5164
	3年生	47.2%	14.0%	6.8%	2.0%	9.9%	9.7%	4614
スマートフォン利用	利用	58.5%	15.2%	9.6%	2.5%	13.0%	9.4%	12841
	非利用	10.4%	14.1%	3.6%	1.8%	4.1%	11.2%	2318
ネット依存傾向	高	72.1%	34.6%	26.4%	9.3%	20.3%	29.0%	645
	中	58.8%	17.3%	10.4%	2.5%	14.0%	11.6%	7768
	低	39.9%	10.1%	4.3%	1.3%	7.8%	5.0%	5658

※ 分析母数は有効回答者全体

- 全体では「歩きながらスマートフォンに見入ることがある」(51.1%)が最も高い。
- 依存傾向別に見ると、全ての項目について依存傾向が上がるほど該当率が高くなる傾向。
- 特に依存傾向「高」の生徒は、「歩きながらスマートフォンに見入ることがある」(72.1%)、「肩越しに他人のディスプレイ画面や入力した情報を盗み見たことがある」(34.6%)、「自分の性別や年齢をいつわって、書き込みしたり、登録したことがある」(29.0%)、「相手が気分を害するような感想をネットに書き込んだことがある」(26.4%)が全体平均を20ポイント前後上回るなど、顕著に高い。

4 高校生のリテラシとネットマナー － ネットにおける不適切なコミュニケーション【複数回答】

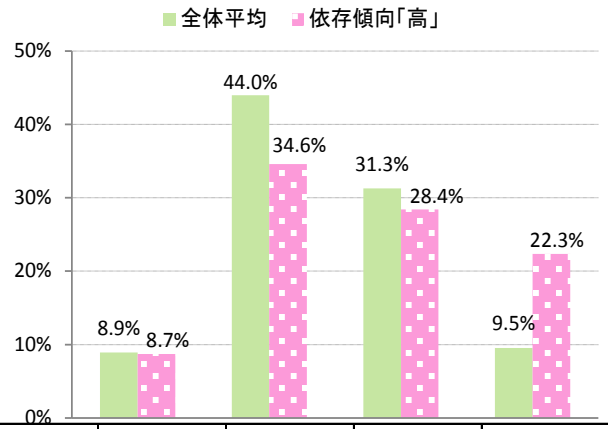


		相手の顔が見えないため、つい感情的な表現を伝えてしまったことがある	実名を明かさずに発言することで、つい無責任な書き込みをしてしまったことがある	自分も相手も実名を明かさずにやりとりすることから、つい感情的な書き込みを何回も続けてしまったことがある	ネット上のコミュニケーションの中で、ネット上で初めて知り合った相手に自分の個人情報を伝えたことある	ネット上のコミュニケーションの中で、ネット上で初めて知り合った相手と実際に会う約束をしたことがある	ソーシャルメディアやメールを使った時に、すぐに返信がないとイライラしたり、相手に文句を言ってしまったことがある	ソーシャルメディアで会話をしている際に、自分の発言を第三者が読む可能性を意識せず、プライベートな発言をしたことがある	N
全体		12.8%	6.8%	3.7%	9.4%	12.3%	5.3%	11.6%	15191
性別	男	13.5%	7.5%	4.3%	6.3%	8.4%	5.2%	10.6%	7069
	女	12.5%	6.2%	3.1%	12.5%	16.0%	5.4%	12.8%	7678
学年	1年生	14.1%	6.9%	4.0%	9.5%	11.8%	5.0%	13.0%	5413
	2年生	13.3%	6.7%	3.7%	9.7%	12.4%	5.8%	12.0%	5164
	3年生	10.8%	6.6%	3.3%	9.1%	12.5%	5.0%	9.5%	4614
スマートフォン利用	利用	13.7%	7.0%	3.9%	10.0%	13.2%	5.5%	12.5%	12841
	非利用	8.2%	5.3%	2.5%	6.2%	7.1%	4.0%	6.7%	2318
ネット依存傾向	高	32.7%	23.4%	16.4%	28.8%	36.0%	15.3%	22.9%	645
	中	15.8%	8.7%	4.3%	11.8%	15.6%	6.2%	14.8%	7768
	低	7.1%	2.7%	1.4%	4.3%	5.5%	3.0%	6.5%	5658

※ 分析母数は有効回答者全体

- 全体では「相手の顔が見えないため、つい感情的な表現を伝えてしまったことがある」（12.8%）が最も高い。
- 依存傾向別に見ると、全ての項目で依存傾向が上がるほど該当率が高くなる傾向。
- 依存傾向「高」の生徒については、「ネット上で初めて知り合った相手と実際に会う約束をしたことがある」（36.0%）は全体平均の3倍弱。さらに、「相手の顔が見えないため、つい感情的な表現を伝えてしまったことがある」（32.7%）、「「ネット上で初めて知り合った相手に自分の個人情報を伝えたことがある」（28.8%）、「実名を明かさずに発言することで、つい無責任な書き込みをしてしまったことがある」（23.4%）と続き、いずれも顕著に高い。

5 社会生活・人間関係 － 友だちが多い方だと思うか

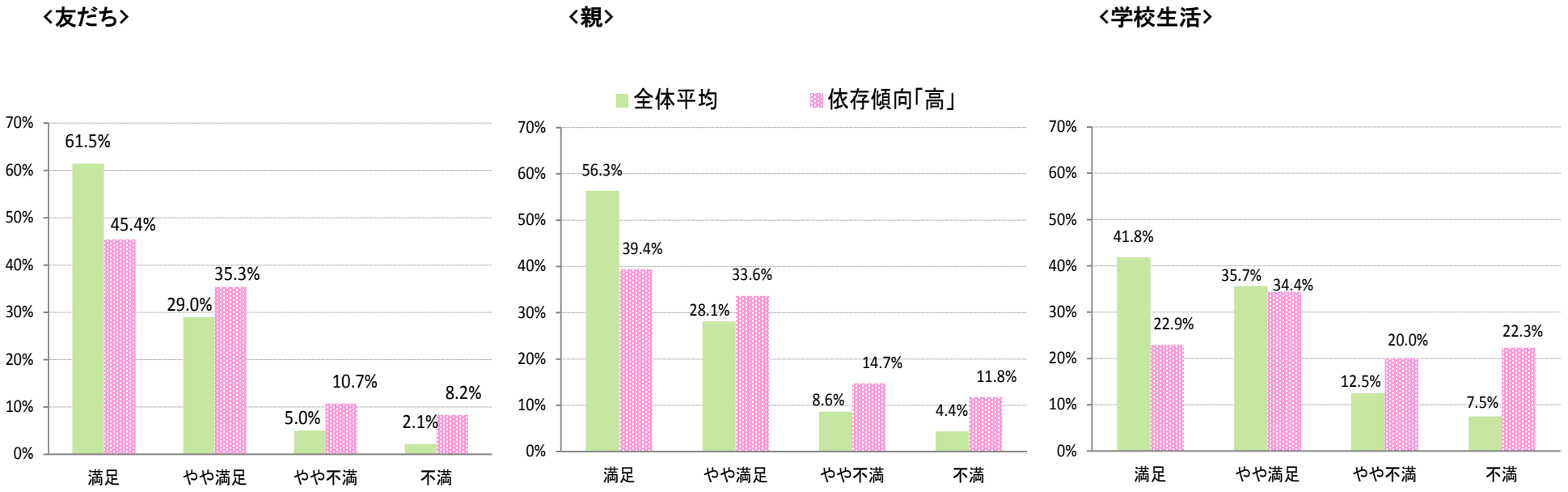


		とても多い	やや多い	やや少ない	とても少ない	無回答	合計	N	多い・計	少ない・計
全体		8.9%	44.0%	31.3%	9.5%	6.3%	100.0%	15191	52.9%	40.8%
性別	男	11.2%	41.9%	29.1%	11.8%	6.1%	100.0%	7069	53.1%	40.8%
	女	7.1%	46.8%	34.1%	7.7%	4.3%	100.0%	7678	53.9%	41.8%
学年	1年生	9.5%	46.5%	29.4%	8.5%	6.1%	100.0%	5413	56.0%	37.9%
	2年生	9.2%	43.0%	32.2%	9.7%	5.9%	100.0%	5164	52.2%	41.9%
	3年生	8.0%	42.0%	32.4%	10.5%	7.1%	100.0%	4614	49.9%	42.9%
スマートフォン	利用	9.2%	45.7%	30.5%	8.4%	6.2%	100.0%	12841	54.8%	38.9%
	非利用	7.7%	34.6%	35.7%	15.6%	6.3%	100.0%	2318	42.4%	51.3%
ネット依存傾向	高	8.7%	34.6%	28.4%	22.3%	6.0%	100.0%	645	43.3%	50.7%
	中	7.1%	44.6%	35.2%	9.2%	3.9%	100.0%	7768	51.7%	44.4%
	低	11.7%	47.0%	28.5%	8.7%	4.0%	100.0%	5658	58.7%	37.3%

※ 分析母数は有効回答者全体

- 依存傾向「高」の生徒については、「少ない・計」（「やや少ない」「とても少ない」を合わせた合計）が、50.7%で過半数を超え、全体平均の40.8%をほぼ10ポイント上回る。
- 依存傾向「高」の生徒は、ソーシャルメディア上でよくやりとりする友だちの数は93.1人と圧倒的に多かったにも関わらず、「友だち」は「少ない」と回答する傾向。

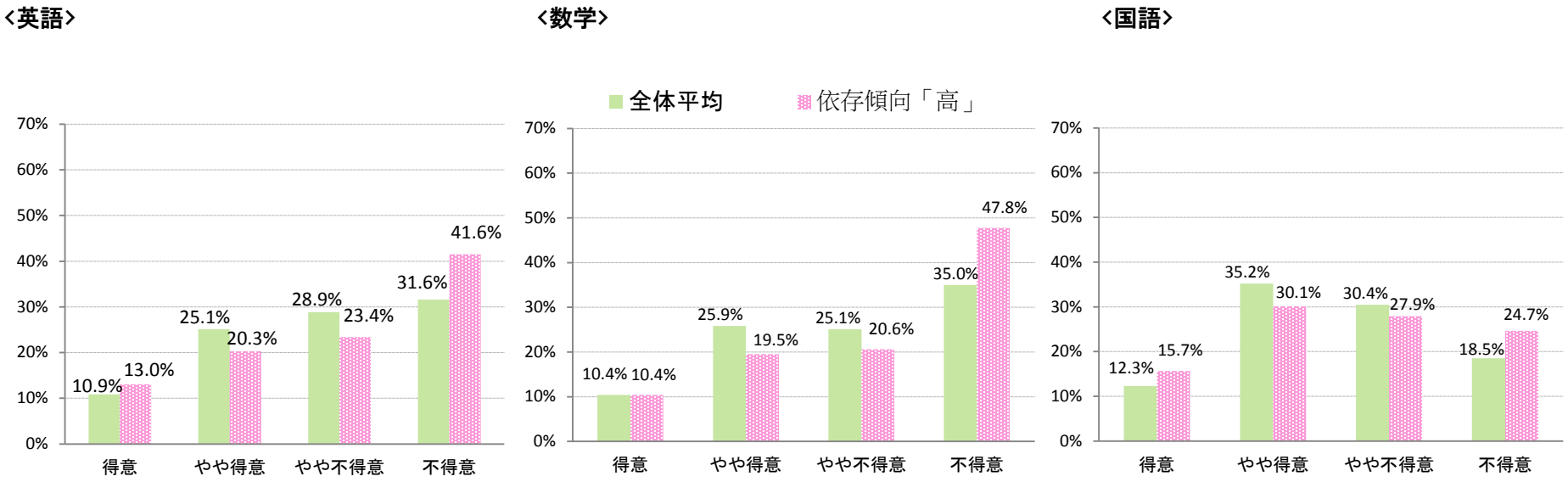
5 社会生活・人間関係 － 友だち、親との関係、学校生活への満足度



※ 分析母数は有効回答者全体

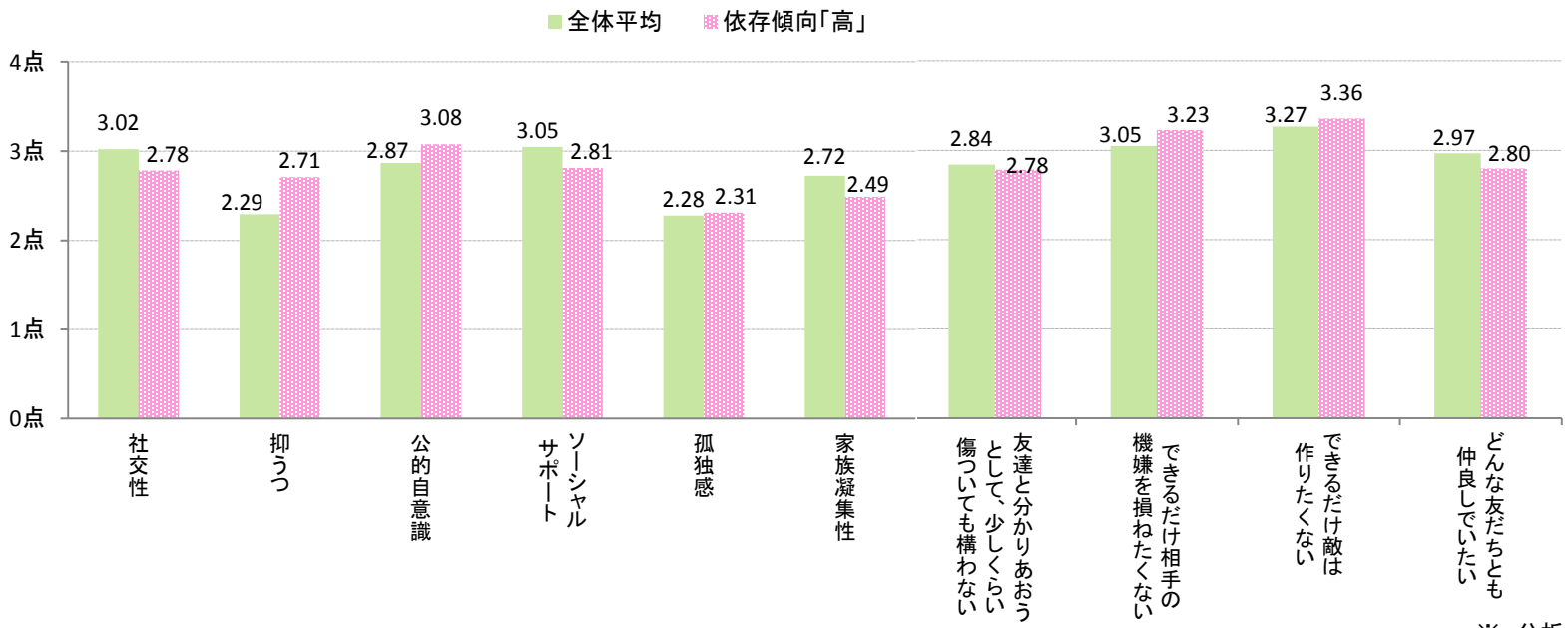
- 依存傾向「高」の生徒は、全体平均と比較すると「不満・計」(「やや不満」「不満」の合計)の該当率が、「友だち」(18.9%)、「親」(26.5%)、「学校生活」(42.3%)と、全てについて全体平均の2倍以上。
- 依存傾向「高」の生徒は、身近な人間関係や社会生活について不満を有している割合が顕著に高い傾向。

5 社会生活・人間関係 － 学校の成績



- 依存傾向「高」の生徒については、全体平均に比べ、どの科目も「得意」と回答する割合が高く、英語、国語では全体平均より2ポイント以上高かった。その一方で、「やや得意」「やや不得意」の割合が低く、「不得意」という回答がどの科目でも10ポイント前後高い。
- 「得意・計」（「得意」「やや得意」の合計）と「不得意・計」（「不得意」「やや不得意」の計）に分けて比較すると、全ての科目について、全体平均に比べ「不得意・計」の方が高いという結果に。

5 社会生活・人間関係 － 依存度「高」の心理傾向



※ 分析母数は有効回答者全体

- 依存傾向が高いほど「社交性」「ソーシャルサポート」「家族凝集性」といった、対人関係の充実度合いを示す値が低くなり、逆に「抑うつ」や「孤独感」といった精神的不健康に関する値や、「公的自意識」といった他者の視線や評価を意識する度合いが高い傾向。
- さらに依存傾向が高いほど、「どんな友達とも仲良しでいたい」、「友だちと分かりあおうとして、少しくらい傷ついても構わない」の値が低く、逆に「できるだけ相手の機嫌を損ねたくない」、「できるだけ敵は作りたくない」の値が高い傾向。
- 依存傾向「高」の生徒は、対人関係が比較的希薄と意識し、充実した人間関係を形成していると感じている割合が低い。また、幅広く友だちを持つということにも、深い人間関係をすることについても回避的であり、人から拒絶されることへの不安から、目先の対立を避けることを優先する傾向が見られる。
- ソーシャルメディアの利用目的において、「現実から逃れるため」「ストレス解消のため」「新たな友だちを作るため」の該当率が顕著に高かったことと整合的。現実からの逃避先として、ネットを選んでいるのではないか。